

岐阜市環境基本計画の改定について

1. 岐阜市環境基本計画とは

「**岐阜市環境基本計画**」は、環境基本条例に掲げる基本理念や基本原則に基づき、**環境の保全や創出に関する施策を総合的・計画的に推進するための計画**です。

基本条例第9条 市長は、環境の保全及び創出に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本計画（以下「環境基本計画」という。）を定めなければならない。
2 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。
(1) 環境の保全及び創出に関する目標、施策及び配慮
(2) 環境の保全及び創出について重点的に取り組む地区の設定
(3) 前2号に掲げるもののほか、環境の保全及び創出に関する重要事項

2. 改定の経緯

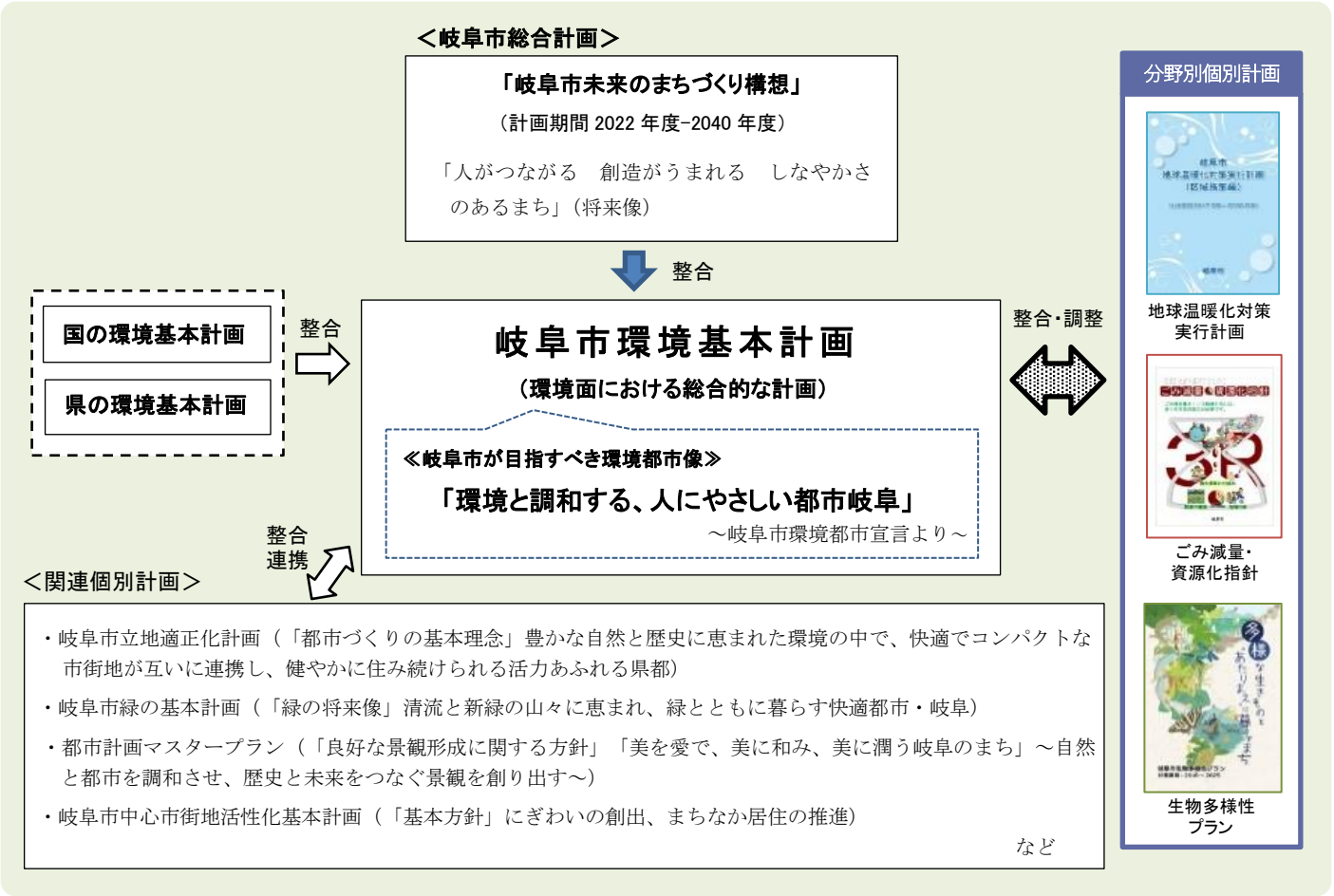
平成10年に、「**岐阜市環境基本計画**」を策定し、その後、第2次、第3次基本計画の改定を経て、平成30年に、現計画である「**第4次岐阜市環境基本計画**」に改定しました。

現在、計画に掲げる重点施策を着実に推進していくため、分野別個別計画に基づき、様々な取り組みを推進しています。

そして、現計画の計画期間（H30～R4 年度）が終了することから、環境基本計画検討部会にて検討を行い
本年度、「第5次岐阜市環境基本計画(R5～R9 年度)」に改定します。

国・ 県の 動向	(国)「第5次環境基本計画」閣議決定（H30.4） ⇒「東日本大震災復興と災害対策」「気候変動対策」「生物多様性の確保」「資源循環社会の形成」 (県)「第6次岐阜県環境基本計画」策定（R3.3） ⇒自然と人が共生する持続可能な「清流の国ぎふ」の実現
市の 動向	「(第1次)岐阜市環境基本計画（H10～19年度）」策定（H10.3） ↓ ・「環境都市宣言」実施（H14.9）⇒『環境と調和する、人にやさしい都市岐阜』を目指す ・「環境基本条例」制定（H18.9）⇒環境の保全及び創出に係る基本理念を規定。 ・「(第2次)岐阜市環境基本計画（H20～24年度）」改定（H20.12） ・「(第3次)岐阜市環境基本計画（H25～29年度）」改定（H25.7） 岐阜市環境審議会へ「岐阜市環境基本計画の策定について」諮問（H29.5） ⇒環境審議会及び環境基本計画検討部会で協議 岐阜市環境審議会から答申（H30.2） 「(第4次)岐阜市環境基本計画（H30年～R4年度）」改定（H30.3） 【分野別個別計画】 ・「地球温暖化対策実行計画」（R4年度改定） ・「ごみ減量・資源化指針」（R4年度改定） ・「岐阜市生物多様性プラン」（H28.3策定） 【その他の計画】 ・「気候変動適応計画」（R4年度策定） ・「生物多様性プランアクションプラン2023-2025」（R4年度策定） ・「岐阜市版レッドリスト・ブルーリスト」（R4年度改定）

3. 計画の位置付け



4. 改定スケジュール

年 月	内 容
令和4年 4月25日	第1回環境審議会
5月～8月	第1～4回環境基本計画検討部会
8月下旬	第2回環境審議会
10月中旬	第5回環境基本計画検討部会
11月上旬	第3回環境審議会
12月中旬～1月中旬	パブリックコメント実施
令和5年 1月中旬	第6回環境基本計画検討部会
1月下旬	第4回環境審議会
2月中旬	基本計画を環境審議会会長から市長に答申
3月下旬	環境基本計画の公表

第4次環境基本計画の進捗状況及び施策・指標に対する意見

施策全体に対する意見	・指標を設けて達成状況を評価するやり方の他に、優良事例の紹介を入れるなど、市民の自主性を引き出す方法を考えてもらいたい。 ・指標の基準値及び目標値の設定根拠を示し、市民にわかりやすい計画とするべきである。 ・達成率 100%という表記は分かりにくいので、達成状況の表記を考えてもらいたい。 ・やりますという目標より、やったことによる効果を目指にすることが良いと思う。 ・その他の計画（ごみ減量・資源化指針、地球温暖化対策実行計画等）の目標値が記載されているが、なぜこの目標値なのか説明が必要である。	
-------------------	---	--

施策		施策指標	基準値	目標値	達成状況					環境審議会及び環境基本計画評価部会の意見（2018～2020 年度の間）
					2018 年度 （平成 30 年度）		2019 年度 （令和元年度）		2020 年度 （令和 2 年度）	
施策体系	施策 1 生活環境を快適にします 1. 大気環境の保全 2. 水・土壌環境の保全 3. 騒音・振動・悪臭の規制 4. 環境美化の推進	1	①大気汚染物質（NO ₂ ）の環境基準達成率	100%	現状維持	100%	◎	100%	◎	・光化学オキシダントについて、指標とすることを検討してもらいたい。 ・ダイオキシンは特定の発生源（ごみ焼却場）からの排出に基づくものであることから、一般環境と発生源（ごみ焼却場・製造業等）を区別して記載すべきであり、きちんと発生源の数値を公表するべきである。
			②微小粒子状物質（PM _{2.5} ）環境基準達成率	99%	現状維持	99%	◎	99%	◎	
			③一般大気に係るダイオキシン類の環境基準達成率	100%	現状維持	100%	◎	100%	◎	
			④空間放射線量率測定の実施率	100%	現状維持	100%	◎	100%	◎	
			⑤アスベスト除去現場への立入調査の実施率	100%	現状維持	100%	◎	100%	◎	
		2	①生物化学的酸素要求量（BOD）の環境基準達成率	100%	現状維持	100%	◎	100%	◎	・測定方法も含め測定結果をできるだけ詳しく載せるよう努力してもらいたい。 ・また、専門用語、単位等説明が必要なものが多くみられるので、工夫してほしい。 ・河川水質について、達成できていない場所についてはその理由を分析し、対応策に繋げてもらいたい。
			②岐阜市河川水質基準達成率	89.6%	100%	89.8%	○	89.4%	○	
			③排水基準適合率	94.1%	100%	89.2%	◎	85.1%	△	
			④地下水の概況調査における環境基準達成率	96.7%	100%	100%	◎	100%	◎	
			⑤水質・土壌に係るダイオキシン類の環境基準達成率	100%	現状維持	100%	◎	100%	◎	
		3	①騒音環境基準達成率（一般地域）	80%	100%	100%	◎	83%	△	・悪臭の測定や規制の方法について、臭気指数についても検討してもらいたい。 ・悪臭を規制するだけでなく、「良い音」「良いにおい」を推奨することも必要である。 ・航空機騒音について、目標達成は難しいが、自衛隊基地への申し入れをしっかりとってもらいたい。
			②騒音環境基準達成率（自動車騒音）	92.9%	95%	93.1%	○	93.9%	○	
			③騒音環境基準達成率（航空機騒音）	100%	現状維持	25%	○	50%	△	
		4	①岐阜市版アダプトプログラムの登録団体数	147 団体	170 団体	151 団体	◎	152 団体	○	・今後、高齢化や人口減少が進むと考えると、アダプト・プログラムの登録団体数を指標とすることは好ましくない。 ・団体の統合による数の減少などもあると思うが、その場合団体数だけみると活動が減少しているように見えてしまうため、数を指標とすることは好ましくない。
			②市中心部におけるボイ捨てごみの総数	3,406 個	減少	2,913 個	◎	2,797 個	◎	
	③路上喫煙禁止区域内でボイ捨てされたたばこの吸い殻の個数		1,565 個	減少	1,228 個	◎	1,007 個	◎		
	施策 2 地球環境を保全します 1. 地球温暖化対策の推進	①市域における温室効果ガス排出量	196.4 万 t-CO ₂	178.2 万 t-CO ₂	194.7 万 t-CO ₂	○	190.0 万 t-CO ₂	○	・森林施業率をそのまま評価するより、森林施業の面積を評価しても良いと思う。 ・市の努力によって削減できる、公共施設のエネルギー使用量と公用車のエネルギー使用量について、率先して努力してもらいたい。 ・樹木の生育の遅れにより森林施業率が下がるのは仕方がない面もある。 ・令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により減CO ₂ ポイント制度への参加者が減少しているが、それによって市民の環境意識が低下しているわけではないので、今後も継続して環境意識を高める努力をしてもらいたい。	
		②ぎふ減CO ₂ ポイント制度参加者数	2,303 人	増加	3,519 人	△	3,362 人	◎		
		③森林施業率	4.8%	増加	3.9%	×	3.5%	△		
		④市内に導入された太陽光発電設備容量	92,824kW	107,019kW	114,665kW	◎	124,380kW	◎		
		⑤市公共施設等の温室効果ガス排出量	71,525t-CO ₂	62,526t-CO ₂	6,8730t-CO ₂	○	67,925t-CO ₂	○		
		⑥市が使用する公用車の温室効果ガス排出量	1,582t-CO ₂	1,559t-CO ₂	1,650t-CO ₂	◎	1,672t-CO ₂	△		
	施策 3 生物多様性を保全します 1. 生物多様性の保全	①生物多様性の認知度	40.1%	50%	36.4%	○	37.5%	△	・生物多様性の認知度をアンケートで調査することは見直すべき。 ・自然環境保全活動団体数の活動以外に自治会や地元の協議会等で実施している清掃活動についても拾い上げて評価したほうが良い。 ・生物多様性シンポジウムは専門性が高いため、認知度を上げる活動としてはそぐわない。もっとわかりやすい内容の取組が必要である。	
		②生物多様性シンポジウムの開催回数	2 回/年	維持	1 回/年度	×	2 回/年度	◎		
		③自然環境保全活動団体数	11 団体	増加	11 団体	△	11 団体	△		
④多自然川づくりにより整備された河川の延長		3,234m	3,550m	3,402m	◎	3,459m	○			
施策 4 ごみを減量・資源化します 1. 廃棄物の対策	①ごみ焼却量	129,362t	116,000t	129,923t	△	127,584t	△	・雑がみ回収量は横ばい状態であり、目標値に到達するのは難しい。市として民間の無料回収へ出されている雑がみ量の把握に努めてもらいたい。 ・雑がみの回収量について、資源分別回収の中止などの影響もあり、回収量の減少も仕方がないことであるが、今後の指標を継続するか検討する必要がある。 ・学校で実施されている児童生徒による雑がみ回収を市内全域に広げてもらいたい。 ・民間の回収ボックスへ出されている雑がみの量を把握して、指標とすべき。		
	②エコ・アクションパートナー協定締結店数	46 店	増加	43 店	◎	47 店	◎			
	③一人あたりの雑がみ回収量	1,387g/人	3,700g/人	1,422g	△	1,389g/人	○			
	④ごみ減量に取り組む市民意識	64.3%	増加	64.6%	△	68.6%	◎			
施策 5 環境意識を高めます 1. ひとづくり・まちづくりの推進 2. 環境重点地区の設定	1	①環境に関する取り組みを実施する人の割合	73.8%	増加	77.0%	△	77.3%	◎	・開催回数を指標とすることも良いと思うが、もっと教育の中身を見ることが必要であると思う。 ・出前講座などで知るだけでなく、市民がどのように活動できるのかまで触れるような教育を強化する必要がある。 ・環境教育を実施する学校には学校の目的があるので、そこを理解しながら無理なく進めてもらいたい。 ・小中学校では、総合的な学習の時間の他にも環境教育を行っており、その時間数を把握する必要がある。	
		②岐阜市まるごと環境フェアの満足度	75.2%	増加	81.1%	×	76.8%	◎		
		③出前講座への参加者数	3,681 人	増加	6,586 人	◎	6,456 人	◎		
		④総合的な学習の時間における環境教育の実施校数	50 校	増加	50 校	△	48 校	△		
		⑤こどもエコクラブの参加人数	1,009 人	増加	1,348 人	◎	1,456 人	◎		
		⑥環境基本計画の認知度	19.8%	増加	21.5%	△	17.6%	×		
	2	①環境重点地区の認知度	11.2%	増加	11.2%	△	8.0%	×	・環境重点地区における活動団体を増やすことは難しいと思うが、団体の活動の参加人数や、延べ人数を数えると活動が盛んに行われていることが分かると思う。 ・中心市街地の居住人口を指標とすることはなじまないように思う。	
		②環境重点地区で環境保全活動などを行う団体数	11 団体	増加	11 団体	△	11 団体	△		
		③中心市街地居住人口	10,617 人	増加	10,707 人	△	10,994 人	△		